

川本中学校 学校便り

川本町立川本中学校
2022（令和4）年12月23日（金）

〒696-0004 島根県邑智郡川本町川下1112番地
TEL 0855-72-0408 FAX 0855-72-1762
E-mail info@kawamoto-jhs.kawamoto-town.jp

主体的に考えるとは① ～ 生徒による校則見直し ～

1年をかけて、生徒たちを中心に、考え、話し合い、校則(学校生活のきまり)の改正を行いました。アンケートをとり、意見を聞く機会を複数設け、生徒会総務委員会を中心に生徒総会で意見を募り、決定というプロセスを経ました。職員も、生徒たちが提案して話し合い、決めたことを承認しました。（内容は下段を参照）

「今回の提案や意見募集を『自分事として』とらえる。『なぜこのルールが必要なのか』を、『なんとなく』ではなく、『論理的に』考え議論する。手順を踏み、実現していく。」これらの一連の過程で、個人差はあると思いますが、多くの生徒が主体的に活動に参加し、自分たちの活動により、物事が『進む・動く・変わる』経験を得ました。

先日開催した郡音楽部会研修会での講師の言葉を引用するならば、『主体的に学ぶ』とは、「興味関心を持ち、自己のキャリア形成（もっとよりよくしたい、なりたい自分）の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びのこと」をいいます。今後も、既存のルールの見直しや、今回決めたことの修正を、生徒たちが振り返り、話し合って改善していくこととなります。

『よりよい学校』を創るために、『生徒の想い』を真ん中に置き、様々な学びを体験させながら、生徒たちの力で物事を考え推進していく。これが、生徒たちの『未来を切り拓く力』の育成につながると考えます。今回の校則（学校生活のきまり）の改正については、このような経過やねらいで実現しました。選択肢を増やす今回の改正について、保護者の皆様にご理解をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新しい学校生活のきまり

服装のきまり ～以下が修正点です。選択肢が増える改正となります。～

- 靴下・肌着は、白・黒・紺を基調とした、柄のないものとする。
靴下については、儀式(入学式・卒業式)の際には、白に統一する。
- 冬の気温が低いときにはタイツの使用を許可する。タイツの色は、靴下の規定に準じたものとする。儀式の際の着用は不可とする。着用できるのは冬服着用時のみとする。

※ 3学期を試行期間とし、令和5年度から正式に施行する。



○生活習慣病予防調理実習(3年生)

〈めざす学校像〉

- 生徒・職員・保護者・地域の人々が、安心して、『夢』や『志』を語り合える学校
- ありがとうの言葉が、あふれる学校



○歴史学習発表会(2年生)

☆ 部活動の結果 ☆

〈吹奏楽部〉

- 令和4年度全日本アンサンブルコンテスト島根県大会(12月10日)
・金賞 受賞 → 中国大会出場決定(2月4日:出雲市)

〈バレー部〉

- 島根県中学生バレーボール選抜優勝大会(12月11日)
川本中 0-2 松江四中(一回戦)
川本中 1-2 江津中(交流試合)



主体的に考えるとは② ~やる気アップ! やればできる! ~

さて、2学期が終わりました。

今学期もたくさん考え、工夫しながら、活動を推進してきました。12月現在では、「第8波」と言われる感染の再拡大も見られていますが、学校では、少しずつできるところから「コロナ後」のことも視野に入れて話し合いを始め、準備を進めてきました。いくつか紹介します。

2年生の修学旅行は3年ぶりに京阪神に行き先を決めました。2年生は小学校の時の修学旅行も、コロナ禍により県内に変更になっていたこともあり、状況が好転していれば県外へと考えていました。感染症対策は、これまでの県内修学旅行と同様、可能なことは全て実施する内容としました。そのような枠組みの中ですが、生徒たちは、やりたいことやできそうなことを提案し、学び、楽しんでいました。

また、文化祭ではステージ発表を行い、野球部、バレー部、文化委員会が発表を行いました。時間と内容について枠組みがある中で、自分たちが伝えたいことを表現する場面を創ることができていました。屋内での集団による表現活動は、コロナ禍では難しい場面がありますが、こちらも工夫して取り組み、今後に向けての第一歩を踏み出す活動となったと思います。

『自分たちのやりたいことや想いを、工夫して周りに伝えること。そして、実現可能なものとなるように練り、行動すること。』~ この大切さを学び、よい経験を得ることができたと思います。

「校則改正」も同様ですが、一歩前に、思考や行動を踏み出していけば、それが独りよがりのモノでない限りは、周りは、理解しようとし、応援してくれます。

『やればできるかもしれない。やらなければ何もできない、変わらない。』この言葉は不易です。ぜひ、冬休みも、そして来年も、『やる気アップ!』をキーワードに、前へ前へと一歩ずつ踏み出していきたいと思います。